

第4学年 図画工作科学習指導案

展開場所 図工室

1 題材名 ベンリ!オリジナル・ダンボールボックス(工作)

2 題材について

本題材「ベンリ!オリジナル・ダンボールボックス」は、四角い形の段ボール箱を土台として、その箱を切って開いて形を変えながら、楽しく使える自分だけの入れ物をつくる活動である。本題材で素材としている段ボールは、児童の身近にあり、集めやすい素材であるといえる。「段ボール」と一言で言っても、大きな家具などの入っていた段ボールから、靴箱などの小さめのものまで、その大きさや厚みなどは意外に幅が広い。ダンボールは大きいものだと扱いつらく、硬さもあるので切りにくいというデメリットがある。しかし、その分強度に優れ、物を入れて使い続けてもへたらないというメリットがある。本題材では、生活の中で使い続けることのできる作品を目指したい、という指導者の想いから、切りにくいが、強度のあるダンボールを、ダンボールカッターの使い方を教えながら土台として用いる。また、ダンボールを集める際には、児童の扱いやすさや作業場の事を考慮し、大きすぎるものを持ってこないよう、見本を提示しながら限界の大きさを指定して集めさせる。本来収納として存在する棚や入れ物は、機能性に優れ、部屋に調和するよう、万人に受け入れられるシンプルなデザインのものが多いと考える。しかし、本題材で目指すボックスは、「つくった後に使える便利なもの」であることの大切さも児童に伝えながら、自分の想いや好きなものが作品から感じられる、世界に一つだけのオリジナル・ダンボールボックスとなるよう、この題材名を設定した。自分で試行錯誤してつくったボックスを、生活の中で使うことの喜びを感じてほしい。

学習指導要領では、第3学年及び第4学年の目標として、(1)「対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに、手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。」(2)「造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。」(3)「進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。」と、示されている。この目標を受けて、内容A表現(1)イ「絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。」とある。本題材はこれらの目標と内容を受けて設定したものである。

本題材ではまず、土台となる段ボールの切り開き方に児童の個性が表れると考える。いろいろな切り開き方を児童から出させたいので、導入の段階で、小さく切りやすいお菓子の箱などはさみで切り開かせる。ななめに切ったり、まっすぐ切ったり、角を三角形に切ったり、いろいろな切り方を児童から出させ、それらに名前をつけて仲間分けしていく。この小さな箱を切り開く活動を通して、立方体や直方体を切り開くイメージをつかませたい。そして、自分や友達が切った箱の形から、何が入りそうか、入れたいものに適した切り方はどんな切り方か、を考える。また、切った形を組み合わせることによって、さまざまな表し方ができることにも気付かせたい。段ボール箱を集める段階で、何を入れたいかを思い描いていた児童も、箱を切った形を見ることで新しいアイデアが浮かぶのではないだろうか。「組み合わせた部分が棚になりそう。」「ふたがパカパカ開く切り方が面白いから動物の口にしてお菓子をいれたいな。」など、児童の発言をたくさん出させ、形の感じや組み合わせによる感じに着目しながら、自分のイメージを深められるようにする。製作の段階では、表したいことに合わせて、箱の切り方や組み合わせ方、材料の使い方、飾りの表し方などを工夫してつくる。その際、段ボールカッターやはさみを使った段ボールの切り方を指導し、安全に作品づくりが進められるように配慮する。段ボールをどの部分で切り開いたら自分の表したい形になるのか、箱に線を引かせて考えさせるようにする。児童が想いに合わせて選ぶことができるように、

形の異なる段ボールや、いろいろな色の色画用紙や色紙、包装紙、多様な材料などをまとめて置いておき、全体で共有して使うことができるようにしておく。また、入れたいものによっては、段ボールでつくった土台の中を仕切りたい児童もいるだろう。段ボールを使った仕切りのつくり方を教え、見本を提示する。中の仕切りや引き出しの部分には、お菓子の空き箱やトイレトペーパーの芯など、段ボール以外の素材も用いてもよいことを伝える。製作の途中の段階で、友達のつくったものが見られるように、ミニ鑑賞会をはさみながら進めていく。鑑賞の段階では、互いの作品を見合ったり、用途や工夫した点を発表したりする時間を設ける。つくった作品を生活の中で使うことの楽しさを感じさせるために、作品を自宅へ持ち帰り、自分が置きたい場所、使いたい用途で使っている様子などを、自分のタブレットで撮影する。その写真をみんなに見せながら、自分の作品の気に入っているところや、友達の作品の良いところを発表し合い、鑑賞の時間としたい。

導入の段階で、まず小さい箱をはさみで切り開く経験をさせ、立体を切り開くイメージを持たせたい。そして、製作段階の初めに段ボールカッターの使い方を教え、安全に製作が進められるように配慮したい。段ボールは固く切りにくいため、切ることが難しい児童には、教師が切り始めだけ切り込みを入れたり、持ち手の部分が握りやすい輪の形状になっている段ボールカッターを渡したりするよう手立てを講じる。

自分の発想や考えを基に表したものを生活の中で活用することで、生活を豊かに楽しくできることに喜びを感じる児童の姿を育てたい。

3 題材の目標

(1) 知識及び技能	(2) 思考力・判断力・表現力等	(3) 学びに向かう力・人間性等
○段ボール箱の形を基に、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどが分かる。 ○段ボール箱を適切に扱うとともに、段ボールカッター、接着剤などについての経験を生かし、表したいことに合わせて工夫して表す。	○用途などを考え、表したいことに合わせて、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。 ○実際に使う中で、作品の造形的なよさや面白さ、表し方などについて、自分の見方や感じ方を広げる。	○生活を楽しくする入れ物をつくる活動に進んで取り組み、つくりだす喜びを味わおうとする。

4 指導計画(8時間扱い)

- 小さい空き箱を切ってみて、どんな切り方が思いつくか、みんなで考えて仲間分けをする。————— 2
- 切った箱の向きを変えたり、箱を組み合わせたりして、どんな入れ物をつくりたいか考える。————— 1
- 段ボールカッターの安全な使い方を知らせ、段ボールを切る。————— 1
- 段ボールを切った形を組み合わせ、段ボール同士や、段ボールと色紙を接着する。————— 1
- 表したいことに合わせて、細かい部分をつくり、飾りつけをする。————— (本時:1/2) 2
- 作品を使う場面と、工夫したところを伝え合い、鑑賞会をする。————— 1

5 材料と用具

材料	用具
段ボール箱、お菓子の空き箱、トイレトペーパーのしん、包装紙、折り紙、色紙、レース、リボン、モール、ボタン、マスキングテープ	段ボールカッター、カッターナイフ、カッターマット、はさみ、万能ばさみ、きり、のり、木工用接着剤、粘着テープ、セロテープ、両面テープ、マスキングテープ、洗濯ばさみ、水彩絵の具、油性ペン

6 本時の指導

(1) 目標

○段ボール箱を適切に扱うとともに、材料に合わせた切り方や接着の仕方ができる。(知識・技能)

○用途などを思い浮かべながら、形や色、材料などを生かしながら、表すことができる。(思考・判断・表現)

(2) 展開(6/8)

学習活動と内容	教師の支援と評価(◆)	資料
<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○安全な段ボールの切り方、材料に合わせた接着剤や粘着テープの使い方を確認する。</p>	<p>拡大掲示 参考作品</p>
<p>もっと使いやすくなるように、ダンボールボックスを進化させよう。</p>		
<p>3 材料の使い方や飾りの表し方を工夫してつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい感じになるように、明るい色の画用紙を組み合わせて飾ろう。 ・パカパカ開く蓋の部分をもっとワニの口に見えるように、目や歯の部分を紙でつくろう。 ・ハンカチとティッシュを入れる場所を仕切りたいな。段ボールで仕切りをつくろう。 ・ペン立ての部分はトイレトペーパーのしんをつなげてつくろう。  	<p>○ワークシートの最初のイメージを参考にしながら、つくっている途中でイメージが変わってもよいことを伝える。</p> <p>○みんなの材料置き場に、いろいろな色の画用紙や包装紙、いろいろな形の空き箱などを用意しておくことで、自分のイメージに合った材料を使えるようにする。</p> <p>○材料によって適した接着方法をまとめた掲示物を用意し、児童がいつでも確認できるようにしておく。</p> <p>○段ボールを使った仕切り方や、お菓子の空き箱などを使った仕切り方があることを伝え、使う場面を想像しながら、中の仕切りの材料や形を工夫できるようにする。</p> <p>◆段ボール箱を適切に扱うとともに、材料に合わせた切り方や接着の仕方ができる。 (知識・技能)</p> <p>◆用途などを思い浮かべながら、形や色、材料などを生かしながら、表すことができる。 (思考・判断・表現)</p>	<p>ワークシート 材料ボックス</p> <p>【材料】 段ボール箱、お菓子の空き箱、トイレトペーパーのしん、包装紙、折り紙、色紙、レース、リボン、モール、ボタン、マスキングテープ</p> <p>【用具】 段ボールカッター、カッターナイフ、カッターマット、はさみ、万能ばさみ、きり、のり、木工用接着剤、粘着テープ、セロテープ、両面テープ、マスキングテープ、洗濯ばさみ、水彩絵の具、油性ペン</p>

<p>4 ミニ鑑賞会を行い、自分や友達の作品の工夫したところを発表し合う。</p> <p>・私は部屋の狭い隙間に棚が置けるように、段ボールをつなげた形を縦にして組み合わせました。</p> <p>・〇〇さんの作品の、仕切りをたくさんつけたところが、いろいろな物が入って使いやすそうだし、カメの甲羅の模様と合っていて面白いです。</p>	<p>〇班(3人グループ)の中で自分の作品の工夫したところを伝え合う。その次に、班の友達の作品の工夫しているところを全体に発表し、伝え合う。</p> <p>〇友達の作品の表したいことやいろいろな表し方を共有することを通して、自分の作品の新たな発想や構想の手掛かりとなるようにする。</p>	
--	--	--

〈場の設定〉

